



第367号

2017年 4月

〒461-0004 名古屋市東区葵2丁目6-35 カトリック名古屋教区広報委員会 「教区ニュース」編集部 電話 (052) 935-2223 FAX (052) 935-2254 印刷所 株式会社 荒川印刷 毎月第1日曜日発行

過越の 聖なる三日間

- 4月13日(木) 聖木曜日 (主の晩さん)
4月14日(金) 聖金曜日 (主の受難) (大斎・小斎)
4月15日(土) 聖土曜日 (復活徹夜祭)
4月16日(日) 復活の主日

聖香油ミサのご案内
4月12日(水) 10時30分
場所 カトリック布池教会大聖堂
主司式 ミカエル松浦悟郎司教

教区ホームページ

福音の ひびき

- 4月の説教者
2日 四旬節第5主日 シェンディ・カニシウス・クンダク (敦賀教会)
9日 受難の主日 北向 修一 (春日井教会)
16日 復活の主日 和越 敏 (チャン・ヴァン・ビン) (瀬戸教会)
23日 復活節第2主日 暮林 響 (神宮修道会)
30日 復活節第3主日 アーノルド・ブルム (豊橋教会)

ゴロー司教の典礼アイデア集から

松浦司教、典礼について、自身の試みなど熱く語る

自身の試みなど熱く語る

「生きた典礼への招き」 生きた信仰養成でもあ...
と題して、松浦悟郎司教...
による講演会が2月11日、南山教会で開かれた。主催は名古屋教区典礼委員会。司教の、笑いを入れている今すぐ参考になる話に、約100人の参加者が耳を傾けた。講演会は、「わが心 たたえよ主を」のテゼの祈りで始まった。



また、「典礼はひとつのパターンではない。その共同体の味が生まれたものとして現れてこなければ」と示唆した。具体例として、ミサにおける選曲や特別な日の典礼の仕方などを挙げ、共同体の工夫次第で生き生きとしたものになることを説明した。

ユスト高山右近列福の意義と恵み (日本の教会の霊性)

古巣馨神父講演会 (長崎教区)

名古屋教区女子修道会・在俗会連盟主催



2月11日、司教座聖堂地下ホールで、長崎教区古巣馨神父を迎え講演会を開催した。右近列福に合せて企画した講演

会は、多数の信徒と司教、修道者を含め70人以上の参加があった。古巣神父は「殉教者たちのことを列福式というお祭りさまで終わらせないでください」との故溝部司教の遺言を紹介し、日本188殉教者と今回の右近列福式に立ち会った者としてその意義を語らねばならないという使

命感を述べた。昨年11月、教皇フランシスコは右近が福者の列に加えられることを宣言し、「自分の名を捨てて、キリストを証した人」と言われた。教皇は、閉塞感漂う日本の教会に右近を差し出してきて、覚悟を決めた人の生き方は人の心に響く。右近は日本の教会の長い弾圧の歴史の入口にいる。彼は「義の人、競い合う人」から「降りていく人」になった。29年間追放され、難民同様の生活を送った。成功者として、秀吉、家康に認められ、そこから

家の中でちょっと違う工夫をしてほしい」と提案した。また、祈りについて、必ずできる最低のことを習慣化することの大切さを強調。まず、だれでも簡単にできる最短、最高の祈りは十字架をきることに。朝起きた時、眠る時、食事の時、例えば試験やプレゼンテーションの折などに。次に、沈黙することの大切さを述べた。聖書を読んだ後少し沈黙することなど。「心を開いて待つ、そういう沈黙が大事」。自身の体験に触れ、20時55分の祈り、霊降臨祭、聖名記念日、受洗日、受難日などのお祝いの日に、食事や飾りで「ささやかでもいいから、降りて仕える道をたどった。

競うことに疲れ、きしむ現代世界。ナシヨナリズム、自分さえよければいいという世界に、右近の63年の人生は大切なことを投げかけているようだ。彼の人生とその生き方は、ある時期一度に完了したわけではない。パウロはステファノ殺害の責任者であった。迫害を通して神は彼をつくり変えた。右近も一生かけてつくり変えられた。右近は、キリストの3つの神秘を抱かれています。①出合いの神秘-右

近は10歳の時に、ザビエルのつじ説法を聞いたロレンソ了斎修道士から受洗した。②苦しみの神秘-右近の3つの苦しみ...保身の苦しき、板ばさみの苦しき、捨ててこそ。34才の時より、追放の身となり、降りていく生き方となる。③復活の神秘-追放されてすべてを失っていき、その追放の地で日本の信徒として派遣された人になっていく。そして、その地に教会共同体が生まれていく。「右近は、血と死を通して信仰を証しする殉教者ではありませんが、それだけではありません。彼が担ってきた大変な苦勞とその奉獻は信仰によるものでした。右近の人生は長い殉教生活でした。」(パレリオ・デ・レデスマ「1615年フィリピン年報」)

古巣神父は、右近の生涯を時折ご自分の信仰体験に絡めて話した。穏やかな口調と心に響く内容は、まるで黙想会に与かっているようだった。私たちもまた、福音宣教に派遣されたものとして、右近列福の意義をかみしめ、日々各々が生きていく場で、神の呼び

祈願に。 案した。少なくとも共同以上のことを踏まえ、司教は各小教区の典礼委員会の設置を呼びかけた。 多言語の賛歌 講演の後半は、司教の指導で多国籍の人たちが歌える、美しい典礼の歌の数々を歌った。ギター(暮林神父)、オルガン、フルートの伴奏と独唱入りで、「栄光の賛歌 Gloria」「サント サント サント」「Wait for the Lord 待ち望め 主の日を」などを、繰り返して歌った。 典礼の可能性を体験した参加者の歌声は喜びに満ち、ホールいっぱいになり、力強く響きわたった。

聖地のための献金 (4月14日・聖金曜日)

全世界の教会からローマ教皇庁に集められる献金は、現在、イスラエル、ヨルダン、キプロス、パレスチナ自治区内にある数多くの巡礼所や聖堂などの維持管理に充てられるほか、聖地の貧しい兄弟のための福祉施設や教育施設の運営、奨学金や生活保護などのために使われています。

教皇「四旬節メッセージ」

神のみことばに心を開かなければ、人は決して全ての人のいのちを受け入れ、愛することはできない、と教皇フランシスコは強調され、「わたしたちが出会ういのちは皆たまものであり、受け入れられ、敬意をもって愛されるに値します」と、3月1日の「灰の水曜日」から始まった四旬節のメッセージで指摘している。 「みことばは、わたしたちがいのち、とりわけ弱いいのちを受け入れ、愛せるように目を開く助けとなります。2月7日にパチカンが公表した教皇の「四旬節メッセージ」の題名は、「みことばはたまもの、他の人々はたまもの。」「ルカによる福音書」(16・19-31)の「金持ちとラザロ」のたとえ話について考察している。 たとえ話は、心からの回心を呼び掛けている、と教皇は指摘し、「真の幸福と永遠のいのちを得るためにはどのように行動したらよいかを知る鍵をもたらすと同時に、心から回心するようわたしたちを強く促しているからです」と書いている。 メッセージの日本語訳全文はカリタスジャパン発行の「四旬節キャンペーン小冊子」で各小教区に配布されたほか、カトリック中央協議会のウェブサイト (https://www.cbcj.catholic.jp/2017/02/10/12225/) にも掲載されている。



世界青年の日 (4月9日・受難の主日)

1984年「あがないの特別聖年」に聖ヨハネ・パウロ二世教皇は大十字架を聖ペトロ大聖堂の祭壇脇に設置しました。そして特別聖年の結びに、それを「主イエスの人類への愛のしるし」として青年たちに託し、キリストこそが救いであることを世界に告げるように願いました。以来、この十字架は教皇の志を継いだ青年たちの巡礼のシンボルとなり諸国を旅する事になります。国連が定めた国際青年年の1985年受難の主日に、青年たちはこの十字架と共に教皇のもとに集まりました。 教皇はこの年、受難の主日を毎年「世界青年の日」として祝うように定め、2-3年に一度は世界中の青年が教皇と出会うワールドユースデー (WYD) が開かれるようになりました。2019年には中米パナマでWYDが開催されます。 2016年教皇メッセージより

障害もつ人々と共に 四旬節黙想会に55人

障害者の黙想会(主催) 月4日、5日の二日間、
教区社会福祉委員会、教 南山学園研修センターで
区障害者連絡会)が、3 開催された。今回の主題
は「神のみわざ」



で、指導司祭の
山野神父(アウ
グスチノ会・港
教会助任)によ
る講話は、ヨハ
ネ福音書の第9
章第1節から第
41節の、イエス
が盲人の眼を明
けるところか
ら。その後6グ
ループに分かれ
て分かち合い。
翌日、講話が続
き、各グループ
の分かち合いの
発表があり、ミ
サで終了となっ
た。



故相馬司教により提唱
された障害者の黙想会も
今回が30回目となった。
黙想会の前は教区障害者
連絡会の総会が行われ
た。遠路金沢・富山両教
会から、また、教区外の
つくば教会に松本教会か
らも参加をえた。障害者
ヘルパー、そして一般の
人々55人が一堂に集っ
た。

休憩時間を利用して赦
しの秘跡があり、暮林神
父と福島の原町教会から
帰任された狩浦神父が加
わった。
(南山教会 成井詔彦)

名古屋教区 力障連総会

障害者の黙想会に先
立って3月3日、名古屋
教区障害者連絡会の総会
が開かれた。これまでカ
障連を指導してきた七種
照天神父が担当司祭を辞
され、後任として山野聖
父が引き継いだ。
はじめに、現・富永会
長が七種神父の長年に亘
る力強いご指導に謝意を
表し、また後継の協力司
祭・山野神父を紹介、新
しい時代を迎えたと歓迎
の挨拶をした。山野神父
は「この名古屋教区的地
で、障がい者の皆様とこ
れから共に分かち合っ
ていけたらと、楽しみに
している」と挨拶された。
総会は、2016年度
実績報告と次年度計画な
どについて、質疑をまじ
えながら承認された。
(岡崎教会 久保田忠郎)

列福式に参加して

2月7日、五反城教会
ではバスを借りて、新立
大輔主任神父、神の愛の
宣教師の6人のシス
ターと共に、総勢38人
で列福式に参加しました。
列福式に初めて参加でき
る喜びに期待を膨らませ
バスの旅が始まりました。
初めに新立神父から、
列福について三つの話が
ありました。それは、右
近の生き方を学ぶこと・
教会の奥深さと広さ・相
互の交わりとつながりを
心に留め大切にしてい
たいということでした。と
ても印象に残りました。
道中、皆でロザリオを

唱え、公式ソング「主
よわが光」を歌いながら
気持ちを整えました。行
きは雪が降る中で、天候
は荒れていましたが、大
阪に入るころには止みま
した。車窓の風景から、
右近の殉教の生き方に触
れた思いがしました。苦
しみながらも最後まで耐
え忍び、神にゆだねた姿
に重なるからです。
バスは順調に大阪城
ホールに到着。そこから
会場までは意外と距離が
あり、足の弱い方、高齢
の方には大変だったと思
います。今回皆で参加で
きたことは共同体にとっ
て、大きな喜びです。
列福式のミサは、教皇
代理のアンジエロ・ア
マート枢機卿の司式で盛
大に行われ、1万人を超
える方が参列。普段では

和、感謝などの感情や思
想を通して、教会の存在
の本質が繰り広げられて
きた。
「教会は1世紀で一つ
歳をとっていく」との言
葉を紹介し、現在は21世
紀なので教会は20歳であ
るべき形への前向きな見
直しをする時期なのであ
ろう。
「教会の命を支える柱
は、いつくしみ。それは、
わたしたちを支える根源
である神の「いつくしみ」
そのもの。わたしたちは
今、あらためて神の「い
つくしみのみ顔」を探し
求めている。一人ひとり
がはつきりとした意識を
もって、心の扉、生活の
扉をそこのに向けて開き、
努力をしているだろう。
教皇フランシスコが語
る「神のいつくしみ」は
抽象的な概念ではない。
彼が出した回勅「ラウ
ダート・シ」からも分か
るように、自然な気持ち
からわき起こってくるや
さしさ、共感、寛大さ、
そしてゆるしの気持ちか
らの行動である。
「幼子のようにならな
い。自覚を持って生きる
歳である。振り返ってみ
ても、たとえば司祭のミ
サ司式が、会衆に背を向
けることから対面して挙
行されることになったよ
うに、根本的な見直しを
通して新しくなってい
味わえない体験でした。
それは多くの方とのつな
がりを感じた教会の豊か
さでした。
私は数年前、大阪の知
人から列福祈願ミサに誘
われて右近を知りまし
た。神への信仰と愛に生
きた姿に感銘を覚え、自
分の信仰があるのも、先
人のまいた種のおかげな
のだと気づかされました。
右近を通して殉教者
が身近な存在に変わら
れば」と言われるよ
うに、無力で自己中心的
のみに触れることがで
きるのだから。また、伝
愛されたとしても、親から
愛されている子どものよ
うにゆだねきって生きて
いく中に、イエスが見せ
てくれる父である神の愛
も、「いつくしみのみ顔」
のまなざし、いつくしみ
のみに触れることができ
るのだから。また、伝
えていくことができるの
だろう。
どんなに不完全で無力
に思えていく教会となっ
ていくのである。
(カトリック社会事業室)

聖霊病院 秋の聖書週間講演会

父のいつくしみのみ顔にふれるのは ゆだねきって生きていく中で



中川神父は、教会の本
質を探究し新しい時代を
迎えるには、実質的な今
を眺めることが大切だと
語った。
教会の歴史は、その時
代に行われた大きな公会
議の後、混乱を経験しな
がら再生するという経緯
をたどってきた。古いも
のから新しいあり方へ。
世界、社会、教会、家庭
のできごとの中で体験す
る人々の喜び、悲しみ、
痛み、苦しみ、和解、平
静を、苦しみ、悲しみ、
痛み、苦しみ、悲しみ、
静を、苦しみ、悲しみ、
静を、苦しみ、悲しみ、

く。わたしたち一人ひと
りの人生の体験から思い
返しても、20歳といえ
ば社会に出て、悩みや失
敗もある。「学生の頃は
こんな苦労もなく、楽し
かった。やる気があった」
などと学生時代を思い返
すように、今ある姿とあ
るべき形への前向きな見
直しをする時期なのであ
ろう。
「教会の命を支える柱
は、いつくしみ。それは、
わたしたちを支える根源
である神の「いつくしみ」
そのもの。わたしたちは
今、あらためて神の「い
つくしみのみ顔」を探し
求めている。一人ひとり
がはつきりとした意識を
もって、心の扉、生活の
扉をそこのに向けて開き、
努力をしているだろう。
教皇フランシスコが語
る「神のいつくしみ」は
抽象的な概念ではない。
彼が出した回勅「ラウ
ダート・シ」からも分か
るように、自然な気持ち
からわき起こってくるや
さしさ、共感、寛大さ、
そしてゆるしの気持ちか
らの行動である。
「幼子のようにならな
い。自覚を持って生きる
歳である。振り返ってみ
ても、たとえば司祭のミ
サ司式が、会衆に背を向
けること対面して挙
行されることになったよ
うに、根本的な見直しを
通して新しくなってい
味わえない体験でした。
それは多くの方とのつな
がりを感じた教会の豊か
さでした。
私は数年前、大阪の知
人から列福祈願ミサに誘
われて右近を知りまし
た。神への信仰と愛に生
きた姿に感銘を覚え、自
分の信仰があるのも、先
人のまいた種のおかげな
のだと気づかされました。
右近を通して殉教者
が身近な存在に変わら
れば」と言われるよ
うに、無力で自己中心的
のみに触れることがで
きるのだから。また、伝
愛されたとしても、親から
愛されている子どものよ
うにゆだねきって生きて
いく中に、イエスが見せ
てくれる父である神の愛
も、「いつくしみのみ顔」
のまなざし、いつくしみ
のみに触れることができ
るのだから。また、伝
えていくことができるの
だろう。
どんなに不完全で無力
に思えていく教会となっ
ていくのである。
(カトリック社会事業室)

後藤司祭

「弱者を顧みず富を 独り占めしている 私たちが自覚すべき」



名古屋地域で活動する
キリスト6教派(在日大
韓基督教教会、日本福音
ルーテル教会、救世軍、
日本聖公会、カトリック
名古屋教区信徒使徒職協
議会女性部、日本基督教
団)が共催し、教派を超
えた女性信徒の連帯と学
び、交流の機会となる世
界祈祷日が3月3日、日
本聖公会名古屋聖マタイ
教会で開かれた。この日
の参加者は29人。カト
リックは50人でした。
今年のテーマは「ワイ
リピン。テーマは「わた
しはあなたに不当なこと
をしているか?」(マタ
イ20章)
「マブーハイ(ようこ
そ)」と、タガログ語の
あいさつから始まり、経
済的公平を求める3人の
女性たちの「声」が読み
上げられた。(DV被害
や性搾取被害者・国内外
の移動労働者・災害に
よって深い傷を負った女
性たち)
講演する後藤香織司祭
「写真」はマタイ20章の
ぶどう園での雇い主と労
働者のたとえ話から、「ぶ
どう園で働いた労働者
は、朝から働いた者も、
夕方から働いた者も等し
く賃金をもらった。今、
私たちは「朝から働いた
のに夕方から働いた者
と同じ賃金では」と不平
を言った労働者の立場か
ら、もっと視野を広げ、
「収穫から得た富を弱者
を顧みず独り占めしてい
る私たち」を、自覚する
ことが求められます」と
語られた。
フィリピンは西太平洋
にある7000余りの
島々からなる島国です。
人が住んでいるのは約1
000の島で、そのうち
の11の島がフィリピンの
陸地の95%を占めていま
す。環太平洋火山帯に
あって赤道に近い為、地
震や台風が起こりやす
く、年平均20個の台風が
通過が、ここ10年、大き
な台風が増えていきます。
フィリピン経済は、今
日アジアの中でも急成長
していますが、政府は国
内での経済的機会が不足
している為、外国で働く
ことを促進する政策を打
ち出し、出稼ぎ労働者の
経済的貢献が大いに影響
しています。世界最大の
出稼ぎ労働者を送り出す
国のひとつとなっていま
す。出稼ぎ労働者は、搾
取・暴力・差別を受けや
すく、中でも家事労働者
の90%を占める女性達
は、特に弱い立場に置か
れています。国内におい
ても、女性の大多数は貧
しく、虐待や搾取を受け
やすく、憲法や法律があ
るにもかかわらず、家庭・
教会・社会で従属的な者
として扱われ、援助や保
護、防止の実施は非常に
限られています。
経済的不平等をもたら
す社会構造の根深さに気
づき、罪を告白し、責任
を自覚し、公正への神の
呼びかけに応え、聖堂に
集った皆で心を合わせて
祈った。
なお、献金はテーマ国
フィリピンはじめ海外の
女性・子供達への支援の
ために使われます。また
国内の被災地や各支援団
体にも送られます。
(信徒協 茅花準子)

新しい年、分裂の世界に一致を!

小教区・金沢教会 広報の拾い読み

ユスト高山右近列福感謝ミサ

アマート枢機卿様をお迎えし、350人が賛美の歌声



ユスト高山右近が「福者」に認定されたことに感謝するミサが、2月9日、教皇代理として来日された列福省長官のアンジェロ・アマート枢機卿様をお迎えし、金沢教会聖堂で盛大に執り行われました。

ミサには金沢教会のほか東京、愛知、富山など県内外から約350人の信徒らが参列し、金沢で26年間過ごした高山右近に思いを馳せながら、賛美と感謝の祈り、歌声を聖堂いっぱい響かせました。

ミサはアマート枢機卿様と、ローマから同行されたジャン・パオロ・リゾッティ神父様、アントン・ヴィットベル神父様が臨席のもと、名古屋教区長の松浦悟郎司教様を中心に、日本カトリック司教協議会列聖推進委員長の大家喜直司教様、野村純一名誉司教様、金沢

教会主任司祭のチプリアノ・ボンタッキョ神父様、県内外の神父様方30人の共同司式で行われました。

開式の聖歌は金沢教会オリジナルの高山右近賛歌「光は今も」が、列福実現の喜びを込めて声高らかに歌われました。説教で松浦司教様は「大名の地位を捨てる決心をして信仰を貫いた右近の生き方は、私たちに信仰に励む力を与えてくれる」と話されました。

祭壇には高山右近の聖遺物が収められた顕示台が置かれ、大家司教様が「この聖遺物をパチカン、大阪の大聖堂と、ここ金沢教会に贈ります」と述べられると、聖堂内に歓喜の音が広がりました。聖遺物は、右近が着ていたチョッキの一部で、このあと全国を巡回したあと、4月ごろに金沢教会に安置される予定です。

ミサの終わりに、金沢教会はアマート枢機卿様に感謝の花束と、ご来会の記念として金沢漆器のペン皿をお贈りしました。

このあと信徒会館2階大ホールで、アマート枢機卿様を囲む交流の集いが開かれました。アマート枢機卿様は大勢の信徒を前に「平日にもかかわらず、家を空っぽにして、たくさん集まってくださ

り、ありがとう」とユーモアたっぷりにあいさつされ、これからの信仰生活に對して「子供たちの教育に力を入れてください」と話されました。柔らかな笑顔と親しみやすいお人柄に、枢機卿様の周りは人垣が絶えず、歓喜の輪が続きました。聖ヨゼフ幼稚園の園児が大ホールで出迎え、祝福をいただきました。

(かなざわ教会より)

2016年度「第41回日本カトリック映画賞」 「この世界の片隅に」に決定

放送、映画、視聴覚メディアに携わるカトリックの国際的な団体である SIGNIS 《世界カトリックメディア協議会=本部・ブリュッセル》の日本組織 SIGNIS JAPAN (カトリックメディア協議会、会長・土屋 至)は、2016年度の「日本カトリック映画賞」に、「この世界の片隅に」(片淵須直監督 カラーアニメ130分 配給:東京テアトル制作「この世界の片隅に」制作委員会)を決定した。

5月20日(土)午後1時から東京・なかのZERO 大ホールで授賞式と特別上映会が行われる。当日はカトリック司祭シグニスジャパン顧問の晴佐久(はれさく)昌英神父のトークなども予定。なおこの件に関しての問い合わせは下記まで。

SIGNIS JAPAN 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-2 女子パウロ会内
井手口 満 ☎080-3934-2932 e-mail: info@signis-japan.org

南山中学・高等学校育友会主催 春の講演会

日時 5月27日(土) 14:00~15:30
場所 南山学園講堂(昭和区五軒家町6番地)
講師 カトリック名古屋教区長 松浦悟郎司教
演題 人間の幸福への道
内容 人間は誰もが幸福になりたいと望み、そこに至るであろう道を生きています。そして、子供たちにもその道を歩ませています。しかし、何が真の幸福かは、「人間とは何か」という根本的な問いと深く関わっているはず。人間の具体的な現実を紹介しながら、この問題をお話したいと思います。

問合せ 南山男子部事務室 052-831-6455

クリスマス献金のお礼とご報告

待降節よりお願いいたしました「クリスマス献金」は、次のようにご厚志が集まりましたので、支援先と共に報告申し上げます。今年度のクリスマス献金は教会・修道会・病院・幼稚園・個人の方々より42件1,104,291円をいただきました。前年度までの端数を加え1,500,000円の援助をさせていただきました。ご協力、誠にありがとうございました。今年度の支援先です。

支援先	支援金(単位・円)
福信館・炊き出し部	300,000
福信館建設	100,000
岐阜ダルク	50,000
名古屋ダルク	50,000
被災地支援・大船渡、米川ベース支援金	200,000
被災地支援・カリタス南相馬	200,000
被災地支援・カリタスジャパン	200,000
NPO 法人セカンドハーベスト名古屋	300,000
※一般財団法人 愛知総合 HEAR センター	100,000
合計	1,500,000円

※一般財団法人 愛知総合 HEAR センターについて 申請者 Fr 伊藤大有(おもな事業)

- ①オルタナティブスクール(フリースクール)・・・能力を持っていないがはじめや家庭の事情などで、引きこもり、不登校となった高校生が、臨床心理士によるカウンセリングで心身の健康回復を目指し、基本学習も補い、復学に向かう支援
- ②働く人の就労、復職支援・・・企業に勤める人も職場、家庭の人間関係、上司との関係がうまくいかず心身の健康を損ね休職をされている方などの復職支援

2017年3月8日現在
教区社会福祉委員会
〒466-0037 名古屋市昭和区恵方町2-15
電話 052-852-1426 Fax 052-852-1422

高蔵寺ニュータウン キリスト教連合会 合同祈禱会に参加して



高蔵寺ニュータウン地域にあるカトリック高蔵寺教会はじめ日本基督教団高蔵寺ニュータウン教会、日本福音ルーテル高蔵寺教会のキリスト教3教会は、互いを尊重しながら幹事持ち回りで、長年にわたって地域の福音宣教のためキリスト教一致活動を行っています。

2016年度はカトリックが幹事を担当して年間活動を進め、年度最終行事となる合同祈禱会を3月4日、カトリック高蔵寺教会で行いました。合同祈禱会は、復活の主日の早天礼拝として過去から継続して行ってきましたが、昨年度から多

くの人が集まりやすい世界祈禱日の翌土曜日午後1時に合同祈禱会を行うことになりました。今回の合同祈禱会では、初めて3教会の牧師、神父の方々が祭服で共同司式を行いました。3教会の信徒が一堂に集まり、互いにキリスト教一致の姿を具体的に感じることができました。

聖書朗読はヨハネ17章。福音宣教のためイエス・キリストが人々に一致を求める内容でした。椎尾神父は説教の中で、ユダヤ教から分離し、迫害を受ける「ヨハネ教会」の宣教とは、光と闇に分けられた中で光が闇の世界に広がって一致することを目指すものであると説かれ、キリスト教一致にふさわしい説教でした。派遣の祝福も牧師、神父が3人揃ってくださり、貴重な経験でした。

祈禱会後の茶話会では、各教会信徒が入り混じって、聖書の解釈が勉強になったなど懇親と互いの理解を深め、2016年度を締めくくりました。四旬節中の祈りが豊かになるだろうと感じました。来年度は日本基督教団が幹事を行います。(高蔵寺教会 谷川雅則)

東日本大震災・災害支援金の報告

社会福祉委員会

発災時より社会福祉委員会へ振込まれた支援金を下記の通りご報告いたします。暖かいご支援に心より感謝いたします!!

(振込手数料引去後の金額)

項目	2011.3.17 発災から 2017.1.31までの合計		2011.3.17 発災から 2017.2.28までの合計	
		単月明細 2/1~2/28		
収入				
支援金総額(※1)	26,915,311	(※2) 165,809		27,081,120
収入合計	26,915,311	165,809		27,081,120
支出				
カリタスジャパンへ	9,544,038	0		9,544,038
さいたま教区	1,000,000	0		1,000,000
オールジャパン会議交通費	123,620	0		123,620
大船渡プロジェクト支援	13,156,234	0		13,156,234
ベースへ車いす4台贈呈	123,200	0		123,200
ベースへピアノ贈呈	58,800	0		58,800
支援ボランティア交通費	471,150	0		471,150
支出合計	24,477,042	0		24,477,042
単月・支援金残高	2,438,269	165,809		2,604,078
支援金残高合計				2,604,078

(※1) チャリティワイン支援金を含む
チャリティワインとは
司教着座記念ラベルワインと3.11東北震災支援ワインを販売。
1本2000円で販売し内500円が災害支援金となりました。

(※2) 2月度に支援金のご協力いただいた小教区・個人(敬称)

金沢教会(2件)
高蔵寺教会
(合計) 165,809円

★名古屋教区は

「カリタス大船渡ベース・地ノ森いこの家」とカリタス米川ベース NPO 法人「障がい者自立センターかまいし」を応援中、
2017年3月からは
カリタス南相馬(旧・原町ベース)、カリタスジャパン(東日本大震災募金)の応援もしていきます。引き続き皆様のご支援、ご協力をお願い致します。

★支援金振込先

郵便振替用紙にて
口座番号 00880-6-1628
名義 カトリック名古屋教区社会福祉委員会
「東日本大震災・災害支援金」と記入願います。

ご連絡・問合せ先

社会福祉委員会
電話 052-852-1426
FAX 052-852-1422

—あらゆる壁を越える教会をめざす中—



4月の教会暦
 2日(日) 四旬節第5主日
 9日(日) 受難の主日(枝の主日)
 世界青年の日
 13日(木) 聖木曜日(主の晩さん)
 14日(金) 聖金曜日(主の受難)(大斎小斎) 聖地のための献金
 15日(土) 聖土曜日
 16日(日) 復活の主日(祭)
 23日(日) 復活節第2主日(神のいつくしみの主日)
 25日(火) 聖マルコ福音記者(祝)
 29日(土) 聖カタリナ(シエナ)おとめ教会博士(記)
 30日(日) 復活節第3主日

5月の主な教会暦(主日・祭日など)
 7日(日) 復活節第4主日
 世界召命祈願の日
 14日(日) 復活節第5主日
 復活節第6主日
 世界広報の日(献金)
 28日(日) 主の昇天(祭)

教区行事予定 (*松浦司教)
 2日(日) 高蔵寺教会訪問* / 宣教司牧評議会
 5日(水) 社会福祉委員会
 8日(土) 司祭生活費支給制度説明会(東海地区) * / 信徒協理事業会
 9日(日) 高岡教会訪問* / 大野教会ミサ* / 教区中高生会
 11日(火) 樹の会
 12日(水) 聖香油ミサ* / 司祭月集*
 16日(日) 五反城教会訪問* / 愛岐B

教区行事以外の松浦司教予定
 4月
 6日(木) 常任司教委員会
 10日(日) 難民移住移動者委員会
 23日(日) 修女連講演
 25日(火) 管区青年担当者会議
 26日(水) 子どもと女性の権利擁護のためのデスク
 10日(水) 難民移住移動者委員会

会議 / 青年委員会
 20日(木) 教区顧問会*
 22日(土) 愛岐B女子錬成会 / 典礼委員会 / レジオ名古屋クリア修女連総会
 23日(日) 修女連総会
 24日(月) セクハラ対策委員会*
 25日(火) 難民移住移動者委員会
 30日(日) 信徒協委員総会*

21日(日) 城北B会議 / 城東B会議 / 城南B会議 / 一粒会委員総会 / インターナショナルミサ・こどもの集い* / 青年委員会
 25日(木) 教区顧問会* / 司祭月集*
 27日(土) 教区法人評議員会* / 典礼委員会
 28日(日) 金沢教会堅信式* / 愛岐B・兄弟の集い

20日(木) 会議 / 青年委員会
 22日(土) 愛岐B女子錬成会 / 典礼委員会 / レジオ名古屋クリア修女連総会
 23日(日) 修女連総会
 24日(月) セクハラ対策委員会*
 25日(火) 難民移住移動者委員会
 30日(日) 信徒協委員総会*

7日(日) 司祭生活費支給制度説明会(東海地区)*
 9日(火) 樹の会
 10日(水) 社会福祉委員会
 13日(土) 共助連絡会
 14日(日) 三河B会議 / 教区中高生会正義と平和学習会 / 樹の会
 20日(土) 総会&講演会* / レジオ名古屋クリア
 21日(日) 城北B会議 / 城東B会議 / 城南B会議 / 一粒会委員総会 / インターナショナルミサ・こどもの集い* / 青年委員会

2017年度 南山大学キリスト教センター講座案内

ロゴスセンターの名称が南山大学キリスト教センターに変わりました(建物の呼称はロゴスセンターのままです)。2017年度は次の諸講座を開講します。*印は「南山エクステンションカレッジ事業」としての開講です。時間、対象、教室、内容など、詳細はお問い合わせください。
 <TEL/FAX> 052-833-3110 <メール> christian-c@nanzan-u.ac.jp

- 【月】 ※墨を愉しむ《筆・ペン》(高山和香)
スペイン語でバーモス(Vamos)!(暮林神父)
- 【火】 カトリック教会のカテキズム(枝村神父)
インドネシア語会話(Br. ジャスティン)
- 【水】 韓国語会話(李仁花)
キリストの教え(石橋神父)
English Language (Antony Susai Raj 神父)
- 【木】 English Bible Reading (シーランド神父)
※パイオルガン講座(林友香)
青年のためのキリスト教入門(暮林神父)
- 【金】 カトリック教会のカテキズム(枝村神父)
楽しいフランス語(荒木優美子)
※和楽器講座(尺八:山田直人、箏・三味線:竹田和子)
- 【土】 Conversação em Português (ポルトガル語)(Domingos de Sousa 神父)
グレゴリオ聖歌研究会(西脇純)

告知板

福信館便り ☎052(935)7180
 ◆4月の炊き出し 木6日東山、13日布池、20日聖霊 樹の会 南山、27日城北橋、金7日喜望の会、14日長浦、21日布池、28日南山

11日(木) 司教常任委員会 / 社会司教委員会
 15日(月) 19日(金) FABC会議
 29日(月) 子どもと女性の権利擁護のためのデスク
 30日(火) 南山学園評議員会

建設費の返済に協力を

562件 28,366,695円
 目標額 40,000,000円 (2月末)

達成率 約70.9%

郵便振替 00810-5-50605
 加入者名 カトリック名古屋教区
 通信欄に「福信館建設」と必ずご記入ください。

《2017年 名古屋一日静修》
三位一体の聖エリザベトの祈り
 —現代人へのメッセージ—

日時 5月20日(土) 10:00~16:00
 講師 須沢かおり氏(ノートルダム清心女子大学 教授)
 「わたしは、光へ、愛へ、命へ行きます」
 場所 カトリック日比野教会 信徒会館
 (地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約5分)
 参加費 1,000円
 持ち物 聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当

申込み 下記いずれかの方法でお申込み下さい。
 FAX / 0568-62-5167 E-mail / seisyuu_2015@yahoo.co.jp
 ハガキ / 〒484-0076 犬山市橋爪一丁目1-26「名古屋一日静修」係

2017年度日程と講師「テーマ」	プログラム
7月17日(月) 松田浩一神父 「父と子と聖霊の唯一の神を信じて生きる —三位一体のエリザベトと共に—」	9:45 受付 10:00 導入の祈り(聖堂) 10:20 第一講話(信徒会館) 11:30 念 祷* 12:00 昼 食(信徒会館) 12:30 念 祷* 13:00 第二講話 14:00 念 祷 14:30 ミ サ(聖堂) 15:30 茶話会(信徒会館) 16:00 終了の祈り
9月23日(土) 片山はるひ氏 「エリザベトと共に生きる —永遠の光のもとで—」	*希望者は赦しの秘跡または面接を受ける事ができます
11月25日(土) Sr. ポーリン・フェルナンデス 「三位一体のエリザベトによる 『聖書に基づくキリスト中心の生活』」	

主催 跣足カルメル修道会 / 協賛 カルメル在世会

神言会多治見修道院・黙想会
 閑静な場所、広い院庭で黙想と心身の保養を!
 指導は及川神父、対象は信徒です。
 4月15日(土) 10:00~16日(日) 16:00
イエスは言われた「私を信じる者は、渴くことがない」と(ヨハネ6の37)
 ※申込み、宿泊費、食事、謝礼など詳細は多治見修道院研修センターまで。
 多治見研修センター ☎0572-22-2038、
 携帯 090-7696-8089、Fax 0572-22-2076
 営業時間 午前9時~午後4時半

名古屋教区本部事務局よりお知らせ
 2017年4月より、毎月初金曜日のミサを主税町記念聖堂にて行います。
 日時 4月7日(金) 10:00~
 担当司祭 立垣 昭神父
 問合せ 教区本部事務局 平田政信神父 ☎052-935-2223

福信館「春のバザー」2017
ホームレス炊き出し支援バザー
 皆様のご協力をお願いします。
 日時 4月23日(日) 10:00~14:00
 入場料 1,000円
 模擬店、リサイクルコーナー、衣類コーナー
 主催 福信館炊き出しの会実行委員会

訃報
 ホワイト・トーマス・ケビン神父
 2017年2月10日 帰天。89歳。
 3月22日(日) 3月22日(日) 生誕
 ドニーに生まれる。46年2月26日初誓願、52年7月27日司祭叙階、53年10月来日。岐阜、敦賀、城北橋、大垣、江南教会を歴任した後、日本聖心布教会の地区長に就任。その後、みこころ幼稚園の園長、学園長として司牧活動に従事した。

名古屋教区カトリック女性の会
「樹の会」総会&講演会のご案内
 講演 松浦司教 演題 「絆」

《総 会》
 日時 5月20日(土) 13:00~13:40 (受付:12:30)
 場所 カトリック南山教会マリア館2F ホール (地下鉄鶴舞線 いりなか下車②番出口 徒歩7分)

《創立10周年記念 講演会》
 日時 5月20日(土) 14:00~16:00 (受付:13:40)
 場所 カトリック南山教会マリア館2F ホール
 講師 名古屋教区長 松浦悟郎司教
 演 題 『絆』 一神の愛を共に生きる—
 「樹の会」は、名古屋教区の唯一の活動する女性の団体として、2006年に司教認可を受けてから、今年で10周年を迎えました。これまでの集大成として、松浦悟郎司教様をお迎えして、記念講演会を開催します。女性としての使命を果たす為の知恵とパワーを頂く講話ですので、どなたでもお気軽にご参加下さい。

☆手話通訳あり。講演会には、学生・若い方・男性の出席も歓迎です。(会費:無料)
 ☆公共交通機関でお出かけください。
 ☆連絡先:「樹の会」事務局 (☎090-9172-4947 深堀)